

年 組 () 名前

サイン



はちじょうじま
◆八丈島という島の近くの海の中に、サンゴがたく
さん育っているのが見つかりました。サンゴは植物の
ように見えますが、きれいな海にいる動物です。

サンゴ群生 並外れ 八丈島沖合

(2021年1月26日
読売新聞夕刊より)

伊豆諸島の八丈島(東
京都八丈町)にある底
土海水浴場の沖合にテ
ブルサンゴが群生し
写真、米山要撮影、
人とサンゴの共生の場
として、注目を集めて
る。

【1】写真に写っているサンゴの
名前はカタカナ7文字です。記事
の中からさがして書きましょう。

--	--	--	--	--	--	--



【発展問題】サンゴはきれいな海でしか生きられません。きれいな海をまもるために、
あなたにできることはなんですか。かんがえてみましょう。



「アフロきゃべつ」でギョーザ

★★

サイン

年 組 () 名前



「アフロきゃべつ」でギョーザ

◆ あじ もんだい 味は問題ないのに捨すてられてしまうキャベツつかを使ったギョーザが給食きゅうしょくに使われることになりました。
(2020年11月17日 読売新聞千葉版より)

銚子市の農業坂尾英彦さん(38)が作ったキャベツをふんだんに使ったギョーザが完成し、子供たちに食べてもらおうと、7800個を市に寄贈した。12月に学校給食として提供される。

キャベツは坂尾さんがアフロヘアであることから、「アフロきゃべつ」と名付けて販売されている。今回のギョーザには、規格外や傷があるなど、味は問題ないが出荷できないキャベツを主に使用。坂尾さんは「食品ロスが問題になる中、自分が作ったものは一つも廃

「アフロきゃべつ」を使って作られたギョーザ(銚子市役所で)



棄したくない。食べた人が産地を訪れたくなるように、消費者と産地をつなげていければ」と語る。
商品名は「アフロきゃべつ餃子」。製造は業務用のギョーザを作る「金星食品(群馬県太田市)」が担当した。銚子らしく、伝統的な発酵調味料「醬しゆ」を使っているのが特徴で、製造販売する「銚子山十」が提供した。

【1】キャベツはなぜ捨すてられてしまうのでしょうか。理由りゆうを2つ書きましょう。

【2】あなたの周りでも、食べられるのに捨すててしまっている食べ物はありませんか。調しらべて裏うらに書きましょう。



年 組 () 名前

サイン

森を育むことで海を豊かにしようという「漁師の森づくりプロジェクト」が南伊豆町でスタートし、町民らが広葉樹の植樹を行った。

プロジェクトは、町への移住・定住や海の清掃に取り組むNPO法人「伊豆未来塾」が企画した。今後、毎年1畝に2000本を植樹していく。プロジェクトの第1回は16日にあり、約130人が参加した。

植樹は、青市地区の山あいにある町有林の伐採跡地で行われた。参加者した林業関係者や小学生らは、スコップで山の斜面に穴を掘り、用意されたコナラ（ブナ科）の苗を一本ずつ植えていった。

伊豆未来塾によると、南伊豆町は昔からイセエビやサザエなどの漁獲が豊富だ

豊かな漁場へ森づくり

◆ 静岡県南伊豆町の海を豊かにしよう、木を切った跡の山に植林していくプロジェクトが始まりました。



南伊豆 伐採跡地に植樹



山の斜面で植樹をする参加者たち（16日、南伊豆町で）

（2021年1月20日 読売新聞静岡版より）

だったが、最近では海藻が繁茂しなくなる磯焼けなどが進み、漁獲量も減少しているという。

将来を見据えて森を再生させる同様の取り組みは、宮城県気仙沼市のNPO法

人「森は海の恋人」（島山重篤理事長）の活動をはじめ、全国各地で行われている。

伊豆未来塾の石川憲一理事長は「効果が出るまで長い年月がかかるが、10年は

続けたい。みんなで作ることが大事だ」と述べた。立ち会った伊豆漁協の佐藤泰一組合長も「森の栄養分が海を支えてくれることだろう。ありがたいことだ」と話していた。

【1】植えるのは毎年1ヘクタール、2000本です。

1本あたりの広さは何m²になりますか。



【2】海藻が生えなくなる現象を

何というか書きましょう。

いそ 磯		
---------	--	--

【3】植えられたコナラは実をつけますが、この実は

一般的に何と呼ばれますか。



【発展問題】あなたが山や海を豊かにするために取り組んだことや、これからやってみたいと思っていることを裏面に書きましょう。



◆南米・ブラジルのアマゾンの森林破壊に国際社会から厳しい目が向けられています。日本にとっても無関係な問題ではありません。

(2021年1月14日 読売新聞朝刊より)

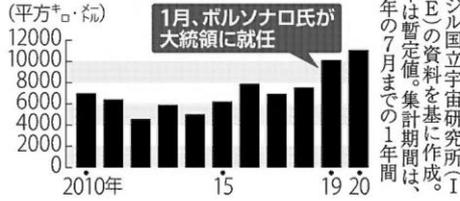
【1】ブラジルのアマゾンで森林破壊が進んでいる原因を記事から探して二つ書きましょう。

【2】ボルソナロ大統領はなぜアマゾン開発を優先してきたのか、記事から見つけて説明しましょう。

【3】環境保全を重視する欧州連合やバイデン米大統領らが、アマゾンの森林破壊に厳しい目を向けているのはなぜですか。

【発展問題】森林破壊が進むと、地球環境や私たちの暮らしなどにどのような悪影響を及ぼしますか。調べて裏に書きましょう。

※「アマゾン地方」における森林伐採の面積は増加傾向にある



◆伐採増加
ブラジル国立宇宙研究所(INPE)によると、ブラジルのアマゾンでは、昨年1年間で、九州のほぼ2倍に当たる約7万7000平方キロ・メートルの森林が焼失した。国際的に大きな関心を集めた2019年(約7万2000平方キロ・メートル)を上回る被害だ。落雷による自然発火だけでなく、農牧地を拡大するための野焼きなどが要因とされている。

鉱山開発などに伴う森林伐採も深刻だ。北西部9州からなる「アマゾン地方」では昨年7月までの1年間で、違法行為を含めた伐採面積が1万1000平方キロ・メートル(暫定値)に達した。前年比で9・5%増で、過去12年で最大規模だった。

◆取り締まり強化
アマゾンの熱帯雨林は大気中の二酸化炭素を吸収し、地球温暖化の抑制に貢献するとされる。環境保全を重視する欧州連合(EU)は、「アマゾン」は地球全体の「ものだ」(マクロン仏大統領)などと、ボルソナロ政権の消極姿勢を批判してきた。

バイデン氏は、トランプ政権が離脱した温暖化対策の国際的枠組み「パリ協定」に復帰する方針を示す。大統領選の期間中には、ブラ

ブラジル アマゾン開発 厳しい目

森林破壊 バイデン氏も関心

森林破壊が進む南米ブラジルのアマゾンを巡り、開発優先の姿勢を示すジャイル・ボルソナロ大統領が対策に本腰を入れるかどうか注目が集まっている。米国のバイデン次期大統領が関心を示すなど、国際的な要請が一段と強まる公算が大きいからだ。(ブラジリア 淵上隆悠)

部に比べ、アマゾンが広がる北部は貧しい。開墾を進めれば、農園や牧場の経営者らの収入拡大を促し、格差是正や国の経済成長につながる」とみているからだ。

ジル政府に対し、アマゾンの森林破壊対策のため、他国と協力して200億(約2兆8000億円)の資金を用意する考えを示した。ジェトゥリオ・バルガス財団(ブラジル)のピニシウス・ビエイラ教授(国際関係)は「米新政権は発足直後から、ボルソナロ政権にアマゾン対策を求める「内政」を分析する。国際社会の批判を「内政」で片付けよう」と指摘する。

干渉」だと反発してきたボルソナロ政権だが、昨年は野焼きの禁止期間を延ばし、軍による違法伐採の取り締まりを強化する姿勢を見せた。今月8日には日本政府との間で、アマゾンを持続的に利用するための農法導入などに向けた覚書を書き交わした。関係者は「経済発展と両立する環境保護策であれば、受け入れるだろう」と指摘する。



世界 17 の宿題を学ぼう

© UNICEF/UNDP/WHO/World Bank Photo Library



「このすばらしい旅の始まりに僕たちは誓うよ。誰ひとり取り残しはしないと」
2015年、こんな宣言とともに、人類の「旅」は始まりました。2030年までに達成すべき世界の17の「宿題」を設定した「SDGs (持続可能な開発目標)」が

国連で決められたのです。たとえばおいしいチョコを食べると幸せな気分になれます。でもそのチョコは、遠くの国の力才畑で子どもが無理やり働かされてできたものかもしれません。じゃあチョコを食べなければいいのでしょうか。がまん

するだけでは、だれも幸せにはなりません。どうすれば誰も取り残さず幸せになるかを考える、それが私たちの「旅」なのです。

読売KODOMO新聞 (2019年7月25日) を一部加工



読売中高生新聞に、SDGsにまつわるコーナーが登場しました。その名も「読売中高生SDGs新聞」。毎月3週目に掲載し、全国の中学、高校の活動を紹介していきます。

SDGsは、かけがえのない地球を維持していくため、2030年までに達成すべきだと国連が定めた目標のこと。「貧困をなくそう」「海の豊かさを守ろう」など17の目標が挙げられています。

どれも地球規模の課題ですが、「自

分たちにもできることはある」と考え、地道に取り組む中高生が増えていきます。そんな中高生を応援しようと4月にスタートしたのが「SDGs新聞」です。

取り上げてほしい学校は、中高生新聞編集室 (chukousei@yomiuri.com) に連絡してください。



読売新聞社は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

読解力向上プロジェクト

Utilizing Newspapers In Schools for Overall Reading-literacy

読解力
アップ

読売新聞教育ネットワークは令和3年度、小学校高学年から中学校を対象とした「読解力向上プロジェクト」を実施します。オリジナル教材 **★よむYOMUワークシート** を使って子どもたちの読解力向上を測定する内容で、効果検証に協力していただける令和3年度上期・下期参加校・自治体を募集します。使用する教材は学校で新聞を活用していただくための学校教職員向け記事教材配信サービス「ワークシート通信」をベースに開発。新しい学習指導要領に準拠した教科書の目指す学力を強化するための副教材です。

新聞記事を独自にアレンジしたオリジナル教材で 言語能力・情報活用力・論理的思考を伸ばします



新学習指導要領に準拠

- 表やグラフの読み取りを多く取り入れ、実践的な国語力を高めることができます
- 令和2年度以降実施の新学習指導要領に準拠しています
- 文部科学省「実用的な文章から必要な情報を読み取る」という新しい学力を育みます
- 大学教授ら有識者の監修を経て、身近なニュースに触れながら読解力が身につくように工夫しています
- 15枚（標準モデル）のドリルと効果検証用テスト等で、読解力の伸びを分析します
- 全国学力・学習状況調査の対策にも通じる設問を数多く取り入れています。

※効果検証は読売新聞教育ネットワークが個人を特定できない形で行います。個人を特定する情報は収集しません。

令和3年度上期・下期の参加校、自治体を募集中

事前登録された学校・自治体（教育委員会）に参加募集の案内をお送りします。詳しくは教育ネットワークの専用サイト (<https://kyoiku.yomiuri.co.jp/contents/unicom.php>) か右側にある専用のQRコード経由で手続きをしてください。



登録は
こちら